令　和　７　年　度

今 金 町 教 育 行 政 執 行 方 針

令和７年３月

今 金 町 教 育 委 員 会

『教育は一瞬にして永遠である』

令和７年第１回今金町議会定例会にあたりまして、教育行政に臨む基本姿勢、方針を申し上げ、町議会並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「今ならまだ間に合う」「決して後悔しない」そんな思いに駆られる、混沌とした空気を醸し出す国際情勢、国内の経済の動き。そして我が町もその動きの中にある人口減少、高齢化。それらの情勢の中で、希望を持ち、笑顔で元気に安定した教育行政を進めるには、町や教育関係者が、「良いものは良い、おかしいことはおかしい」という倫理観、人生哲学を持ち、住民満足度・児童生徒満足度の向上、心理的安全性を高める、着実で前向きな教育行政が求められます。

必要なこと、それは「納得・他者への寛容さ」、優しい町づくりです。それを支える自身の知性・健康。ウェルビーイングの精神。そのビジョンの共有を図るべく、ここにグランドデザインでお示しし、教育行政執行方針を申し上げてまいります。

初めに『１　変化の激しい社会を見据えた学校教育・幼児教育』についてです。

教えることをためらわない。どんな時代になっても変わらないもの、それは教師と児童生徒がともに練り合う授業が学校の基本ということです。学校はその環境空間も含め、授業が命です。確かな学力を育む教育を推進します。めあての把握、まとめの確認、そして児童生徒自身が、理解したことを自分の言葉で表現する、書く、伝える授業を大事にします。ＩＣＴも活用しながら論理的思考の理数教育、英語で考え英語で表現できる生きた英語教育の充実を目指します。ＡＬＴ（外国語指導助手）の活用により、中学校を中心に各学校でのネイティブな英会

話の授業を進めます。

授業の充実には、教える者と学ぶ者という規律性が欠かせません。信頼関係、礼儀、言語環境。規律正しさの中に時折流れる爽やかな笑いや笑顔。そんな学習環境が全ての基本です。それらを重視します。子どもたちが落ち着いて前向きに学ぶ前提は、子ども同士の穏やかで建設的な人間関係、豊かな心です。道徳教育、体験活動、生徒指導の充実を図る中で、人の痛みの分かる教育を推進し、ＳＮＳ等でのトラブルやいじめを起こさせない、いち早く解消する取組を積極的、組織的に行います。

脳の活性化は健やかな体から始まります。調査結果を活用した体系化された体育授業や、食材、作り手へも感謝の心を及ばせる食育。がん教育、感染症対応や環境問題にも目を向けた健康教育を進めます。健康教育アドバイザーは義務校のみならず、町の教育機関いずれにも適時性をもって機能できるシステムを継続します。

多様なニーズに対応した取組の充実も重要です。「その日のことはその日のうちに」。欠席即家庭訪問。本意でない不登校、登校しぶりへの早期対応、継続対応。先を見据えた進路ガイダンス。学校にアクセスできない児童生徒を出しません。学習のみならず、級友、取り巻く人とのふれあい。一時間・一日に何か一つでも子ども自身がつかめる。その喜びが学校にはある。学校はできる。そう信じています。

町保健福祉課や育ちの支援会議、地域自立支援協議会と共に、１８歳まで一人一人に寄り添う支援を、相談支援事業所や就労支援団体と取り組んでまいります。特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、通級指導の充実を図るとともに、インクルーシブ教育システム・合理的配慮の理念を踏まえた連続性のある「多様な学びの場」の構築を目指してまいります。併せて、子ども子育てプロジェクトの一環として、こども園保育教諭派遣事業等、効果的・効率的な

マネジメントと子ども支援体制の強化を継続します。

次に『２　生きがいを支える社会教育』についてです。

令和７年度は「第７次社会教育中期計画」の策定の年に当たるため、町の総合計画後期計画の策定と歩調を合わせ、向こう５カ年の年次計画について、社会教育関係委員の皆様の意見を得ながら策定を進めてまいります。

多種多様な学習意欲に応える社会教育を進めます。

第１は、基盤を支える人づくり、地域づくり、絆づくりです。進む少子高齢化、過疎化の中で地域のリーダーは宝です。今金ふるさと塾、動く公民館事業、ドリームバスツアーなどの研修活動を通じて地域のリーダーを育成し続けます。将来のリーダーとなる子どもたちには様々な体験を、さらにそれらの事業を運営する中で、中心となって活躍する指導者人材を育てることを目指し、継続していきます。

人に頼られるリーダーをはじめ、町民の心の拠りどころ、人としての財産として、感性豊かで広い心を育む文化・芸術の振興は、心の潤い、町づくりの重要な基盤です。子どもたち、町民の心の栄養として、幼少年芸術劇場、１０周年を迎える今金ミュージック・サマースクールの開催、文化協会の支援等、文化芸術活動の推進を計画的に進めてまいります。

文化庁認定を受けた今金町文化財保存活用地域計画、北海道遺産に選定された今金・美利河の金山遺跡、国指定の史跡・ピリカ遺跡等、学術的にも観光行政的にも発展性のある文化財の保護振興に努めます。

「住民参加で未来へつなごう　今金の歴史文化」のスローガンの下、学術研究、

知の栄養のみならず、「守る・調べる・磨き上げる・育てる」の方針で、学校の授業での「ふるさと学習プログラム」の取組、「いまかね学検定」の活用など、ボランティア、関係人材の育成にも努め、美利河地区を核とした観光資源に結びつける文化財保護活動を着実に進めてまいります。

生きがいを感じる源は心身の健康です。体と心の健康が一番です。そこからゆとりと優しさが生まれます。健やかな心身を育む生涯スポーツの振興を進めます。

子どもから成人・シニアまで、人間力の形成、地域の活性化、外部連携による人材育成などスポーツを通したひとづくり・まちづくりを進めてまいります。参加しやすいスポーツ活動の実践や食育活動等を通して、健康増進、健康長寿社会の実現を目指します。また、「第２期今金町スポーツ推進計画」に基づき、スポーツ協会や関係団体と共に、それらの活動を支えるスポーツ環境の充実、企画運営の充実を図ります。

次に、学校教育・幼児教育、社会教育が連携・融合して進めていく、『３　未来へつなぐ今金の教育』です。

目指すは、◆「確かな判断力」と◆「自らを表出（ｏｕｔｐｕｔ）できる力」の育成、人間力の向上です。

【読書（ｉｎｐｕｔ）と作文（ｏｕｔｐｕｔ）のまちプロジェクト】をベースに学校教育グループと社会教育グループの連携施策で、図書振興、自己理解・他者理解を深める体験学習、家庭教育を進めてまいります。

「第２次今金町図書振興計画および第４次子ども読書活動推進計画」の推進のため、学校図書館運営支援や図書ボランティアと進めるブックスタート、読み聞かせ等、心と知の栄養に繋ぐ事業を充実させます。

ネット時代の中で最適解を探究する上で重要となる実体験。違いを認め合う国際理解教育や、障がい者理解教育等、大学等との連携による体験学習を通じ、充実させてまいります。

北海道教育大学函館校との連携で、今金中学校２年宿泊研修での外国人留学生との英会話、異文化交流体験。小学生・中学生が今金町内で教育大生や外国人留学生と過ごすイングリッシュキャンプ事業を展開してまいります。

少子化が進む中でも変わらないもの、それは広い心・優しい心を育む家庭教育です。教職員（学校教育・幼児教育）も親（子育て）から学び、親も社会の中で子育てを学ぶ。その機会を増やし、個と集団（社会）それぞれの教育のあるべき姿を理解し合い、共に子どもの成長を支えていく、ぬくもりのある親学の機会を設定します。ＰＴＡ活動支援や親学講座、諸事業を通して、共に進める家庭教育の機会を提供してまいります。

学校教育・社会教育の連携が結実する姿として、今金町独自の事業『いまかねエッセイ（作文）コンテスト』を一年かけて進めてまいります。「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考するＰＩＳＡ型読解力（Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｌｉｔｅｒａｃｙ）を踏まえ、学校教育での「書く活動」を重視し、読書と作文のまち・プロジェクトチームが選定したテーマに沿って、児童生徒、町民からエッセイ（作文）を募集、審査し、レベルの向上を目指します。語彙力・読解力・表現力を高め、それぞれの作品製作の成就感、達成感、芸術性を人間力の向上に結びつける取組をさらに高め、継続してまいります。

全国的にも減少していく児童生徒数の現状を見据えた、スポーツや文化の経験

を保障できる部活動改革（地域移行）については、部活動を含めた今金町全体の「芸術・スポーツ環境の問題」として、サポーターバンク制度を活用し、その方向性を探ってまいります。

４点目は、これら学校教育・幼児教育、社会教育を支える『４　教育環境の充実』です。

教育行政の基本理念である「今金町の子どもたちは今金町民の手で育む」の理念の下、教育に関わる連携は、「全ては子どもたち、町民のために」という共通意識の下で進めていかなければなりません。その基盤となる家庭・地域との連携・協働を、学校、諸団体、官公署、町内会・自治会から構成する学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等と共有して進めていくよう、町部局とともに開かれた教育施策として進めてまいります。

子どもたちの将来に繋がる一貫した教育理念、年代に応じた教育方法を、こども園・小学校・中学校、学童保育所、発達支援センター等、各教育機関とともに共有しながら、今金の教育の姿として進めてまいります。

教職員、関係機関職員の明るく活力ある姿は、児童生徒、町民の元気に結びつきます。最新の教育情報を身につける研修、ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）や生成ＡＩの活用の進んでいく中、すでに導入されている校務支援システムや機械警備等の活用による、仕事の効率化や、納得感、倫理観、やりがいに結びつく働き方改革を進めてまいります。

諸教育施設、設備を適切、効率的に運用してまいります。国のＧＩＧＡスクー

ル構想・一人一台端末更新に伴う機器の入れ替えを行い、同時に児童生徒用机の天板拡張器具を設置することで子ども達が常時、文房具のように自分のペースでタブレット端末を活用する情報活用能力の推進を図ります。「今金町学校給食センター改築事業」では今年度着工、令和８年度夏供用開始へ向け、事業を進めてまいります。

以上、令和７年度の教育行政推進の基本方針をグランドデザインと共にお示しいたしました。

『教育は一瞬にして永遠である』その思いを胸に、教育行政として「誰一人不幸にしない」。人としてのＲｅｓｐｅｃｔのある町、ぬくもりのある今金町の教育を進めてまいります。

今後とも町民の皆様、町議会議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、教育行政執行方針といたします。